
戦場のヴァルキュリア4～異国の英雄～

李俊刀燐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦場のヴァルキュリア4〜異国の英雄〜

【Nコード】

N0122R

【作者名】

李俊刀燐

【あらすじ】

この物語は・・・ガリア内戦から5年後の物語である。

時は征暦1942年、連邦、帝国の第二次ヨーロッパ大戦はいまだに決着が着かないまま戦争は泥沼化していた、そんな時ガリアの南にある連邦、帝国の配下であったロゼーニ王国、アルセイド公国、ライガール皇国が独立を宣言した、もちろん連邦、帝国は独立を阻止しべく軍隊を送ったが大戦による疲弊で連邦、帝国は敗北した、その後・・・3国はロゼセイドガール連邦帝国通称連帝と名を替え合併した。ガリアとは貿易同盟は結んだものの軍事同盟は断られ、

それにより連帝はガリアに宣戦布告、先に言うガリア戦争の幕開け
だった・・・。

(前書き)

どうも李俊刀燐です^^

PSPの戦場のヴァルキュリア3をplayして書きたくなったので書いてみました^^

話はガリア内戦から5年後のお話です、1が義勇軍、2が士官学校、3が懲罰部隊ときたので4は外人部隊かな？って感じで作ってみました、駄作ですがよろしくお願いします

この物語は・・・ガリア内戦から5年後の物語である。

時は征暦1942年、連邦、帝国の第二次ヨーロッパ大戦はいまだに決着が着かないまま戦争は泥沼化していた、そんな時ガリアの南にある連邦、帝国の配下であったロゼーニ王国、アルセイド公国、ライガール皇国が独立を宣言した、もちろん連邦、帝国は独立を阻止しべく軍隊を送ったが大戦による疲弊で連邦、帝国は敗北した、その後・・・3国はロゼセイドガール連邦帝国通称連帝と名を替え合併した。ガリアとは貿易同盟は結んだものの軍事同盟は断られ、それにより連帝はガリアに宣戦布告、先に言うガリア戦争の幕開けだった・・・。

1942年、4月、ユエル市、ガリア正規軍第57大隊駐屯地、司令室

??? 「失礼します」

??? 「よく来たな座れ」

??? 「はっラジル少将殿私に何の用でしょうか？」

ラジル 「君の所属部隊が決まった」

??? 「本当ですか？」

??? 「ああそうだ、コウ・リヨウメイ少尉君を第11特殊機動小

隊通称イレブンブレイカー配属を命ずる！」

コウ「はっ！」

こうして俺は第11特殊機動小隊イレブンブレイカーに配属されたのだった。

第11特殊機動小隊駐屯地

コウ「今日から配属になったコウ・リョウメイ少尉だよろしく頼む」

「私はセリア・マーキンです、少尉よろしくお願いします」

「私はフェリア・ワースだよろしく頼む」

「俺はライゼン・ガーネスだよろしくな」

「・・・イース・キルア」

「じっ自分はアイヤー・スレルです！」

「同じライハウ出身のウエン・フウリンだよろしく」

「俺の出身はガリアだがダルクス人の為ここに配属になった、名はサーズだよろしく頼む」

「私はこの隊唯一のガリア人、ネル・フィルタよろしく」

「僕はケリー・ユウインです」

「そして最後は私エリス・ウェルナーよ」

名の紹介の後セリアが声をかけてきた

セリア「隊長こちらに」

コウ「ん？」

セリアに案内してこられたのは格納庫だった。

コウ「戦車か？」

セリア「違います」

コウ「つてことは装甲車か・・・」

セリア「それも違います」

コウ「??:?」

セリア「これです」

そう言いセリアは被さっていた布の取った。

コウ「こっこれは・・・」

俺の見た物はすごかった、まさかこの隊で見ることとなるとは・・・

セリア「ガリア初の戦闘機ガリウス500です」

セリア「続いて連邦からの輸入機ファリア45」

セリア「帝国からの輸入機第7式」

セリア「爆撃機もありますガリア産のガリウス400」

セリア「連邦産のファリアス35」

セリア「帝国産の第6式」

計10機以上もの飛行機が並んでいた。

セリア「我々の隊は主に二つの軍に属します」

コウ「陸軍と空軍か」

セリア「そうです、空軍から命令が出た場合は空中戦、陸軍から命令が出た場合は地上戦になります」＊空軍は内戦から3年後配置される、初期は連邦&帝国からの輸入品のみだったが1年前ダルクス人の発明家がガリアでの初の戦闘機を製造、半年後には量産が出来るようになる

コウ「ハードだな・・・」

セリア「期待してるんですよ我々に」

コウ「・・・そうか?・・・そうだな」

俺達は元にくいた場所に戻っていった。

コウ「そういえば隊長は誰だ?」

セリア「聞いてなかったんですか？」

セリア「我々には今の所隊長はいません」

コウ「・・・」

コウ「じゃあ話を変える、隊長格の奴はいるか？」

セリア「それならライゼン軍曹かと」

それを聞き俺はライゼンの元に向かった。

コウ「隊長がいないと聞いたが本当なのか？」

ライゼン「ああ、そうだ、元隊長は昇格して上の部隊へ入った」

コウ「そうなのか・・・、隊長はどう決められるんだ？」

ライゼン「過半数の隊員が認めれば隊長として認められる」

コウ「わかった」

・・・そんな時だった。

フェリア「少尉！、司令部から連絡です！」

俺は急いでも無線機を取った。

コウ「こちら、第11特殊機動小队コウ・リョウメイ少尉です」

??? 「司令官のベン・ダインだコウ少尉、南のサガ村付近に敵の偵察機を発見した、直ちに追撃してくれ」

コウ「了解しました！」

ベン「健闘を祈る」

そう言うのと通信が途絶えた。

俺は隊員全員に聞こえるほど大きな声で言った

コウ「全員、出撃準備だ、敵はサガ村付近上空！」

隊員達『ハッ！』

隊員達は自分の愛機に向かっていった。

こうして俺達第11特殊機動小隊イレブンブレイカーの物語が始まった。

（後書き）

本命は雷の貴公子なので連載は考えていません・・・でも雷の貴公子が終わったかどうかは考えます。読んでくれてありがとうございます。ありがとうございました。キャラ紹介はまた後日発表します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0122r/>

戦場のヴァルキュリア4～異国の英雄～

2011年10月8日08時05分発行